



『武陽月報』は、武陽食品株式会社と株式会社J-オイルミルズが、酪農家・肉牛農家の皆様に役立つ情報をお届けするニュースレターです。

生乳生産見通し 1.7%増 Jミルク

Jミルクは、2021年度の生乳生産量は前年度比1.7%増の756万4,000トンになるとのみとおしを発表した。地域別には、北海道は426万9,000トン(前年比2.6%増)と増産が継続するとしており、都府県に関しても、329万5,000トン(同0.6%増)と前年度を上回るとしている。

都府県の生乳需給は、生乳供給量327万2,000トン(前年比0.6%増)に対し、飲用等向け需要は前年度並みの351万7,000トンと予測しており、その結果、北海道からの移入量は52万4,000トン(同3.6%減)とで2019年度よりも低い水準となる見通し。特に、夏季(7~9月)の移乳量は16万1,000トン(同13.7%減)と大きく下回るとしており、8月は巣ごもりと昨夏の夏休み短縮による学乳供給の反動から約2割減の4万8,000トンとしている。一方で、最需要期の9月は、6万7,000トン(4.8%増)、10月も5万8,000トン(1.7%増)を見込んでいる。

牛乳生産量は学乳と業務用の回復、昨年の巣ごもり需要の反動等から、前年度並みの319万3,000キロリットルと見込んでいる。

用途別処理量は昨年の巣ごもり消費の反動から、飲用等向けが0.4%減の406万8,000トン、乳製品向けは4.4%増の344万9,000トン。うち生クリーム等向けは3.1%増の123万1,000トン、チーズ向けは3.8%増の42万9,000トンを見込む。また、脱粉・バター向けは5.5%増の178万9,000トンで、これ

は生乳の供給量が増えることが影響している。

ナラシ事業 14年ぶり発動 農水省

農林水産省は、加工原料乳価格の下落時に酪農経営への影響を緩和するために措置している加工原料乳生産者経営安定対策事業(ナラシ事業)を発動した。発動は14年振りとなる。2020年度の加工原料乳を対象に1キロ当たり75銭が、同事業に加入している生産者に交付される。対象数量は323万3,000トンとなる。9月以降に支払われる見通しとなっている。

ナラシ事業は加工原料乳(脱脂粉乳・バター等向け、生クリーム等向け、チーズ向け)の取引価格が下落した場合のセーフティーネットとなっており、取引価格が過去3年間の全国平均取引価格の平均である補填基準価格を下回った場合、その差額の8割を補填する。原資は生産者と国が1対3の割合で造成した積立金(約77億円)を充てる。20年度の全国平均取引価格は1キロ当たり82円86銭で補填基準価格の83円80銭を94銭下回り、差額の8割の75銭を交付する。発動額は24億円(うち国費18億円)の見込み。

農水省は発動について、新型コロナウイルスの影響により業務用乳製品の需要が停滞し、中でもクリームの荷動きが鈍く、生乳廃棄を避ける目的もあり、乳価が相対的に低い脱脂粉乳やバター、チーズへの生乳仕向けが増えたことなどが、加工原料乳の取引価格下落につながったのではないかとしている。

飼料のご用命は

武陽食品株式会社

飼料部宮城営業所 飼料部福島営業所

東北第一営業所山形出張所 担当

5月牛肉生産 前年比0.9%増 ALIC

独立行政法人農畜産業振興機構(ALIC)は、2021年5月の牛肉生産量は、前年同月比0.9%増の2万5,458トンとわずかに上回ったことを発表した。品種別には、和牛が1万1,925トン(前年同月1.5%増)、交雑種は6,395トン(同2.1%増)と、ともにわずかに上回った。一方で、乳用種は6,717トン(同1.5%減)と、わずかに下回った。過去5カ年の5月の平均生産量との比較では、0.6%減とわずかに下回る結果になったとしている。

5月牛肉輸入 前年同月比0.9%増 ALIC

独立行政法人農畜産業振興機構(ALIC)は、2021年5月の牛肉輸入量が前年同月比0.8%減の4万9,633トンとわずかに下回ったことを発表した。このうち、冷蔵品は前年同月の輸入量が新型コロナウイルスの感染拡大に伴い北米の現地工場が稼働停止した影響により少なかったことなどから、2万2,568トン(前年同月比9.7%増)とかなりの程度上回った。一方、冷凍品は前年同月の輸入量が不足した冷蔵品の代替により多かったことに加え、豪州産牛肉の生産量減少

や米国産牛肉のアジア諸国への輸出量の増加および米国の国内需要の増加による現地相場の高騰などから、2万7,062トン(同8.1%減)とかなりの程度下回った。過去5カ年の5月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は1.9%増とわずかに上回る一方、冷凍品は6.4%減とかなりの程度下回る結果となった。

2020年度成牛畜頭数2年ぶり増加 農水省

農林水産省は、2020年度の成牛のと畜頭数は前年度比1.5%増の105万2,896頭と、わずかに上回ったことを発表した。交雑牛および乳牛のと畜頭数が減少したものの、和牛の増加が大きかったことから、全体では2年ぶりの増加となった。

また、調査卸売市場(中央卸売市場および地方卸売市場)における市場経由率(卸売市場における取引成立頭数が全と畜頭数に占める割合)を見ると、33万5,268頭と31.8%を占めた。このうち、中央卸売市場は23.5%(24万7093頭)と前年度より0.4ポイント上昇し、7年ぶりに前年度を上回った。また、地方卸売市場も8.4%(8万8175頭)と前年度より0.2ポイント上昇し、3年ぶりに前年度を上回った。

J-オイルミルズ ファイバーフィード 乳用牛・肉用牛飼育用配合飼料

ファイバーフィードは、大豆皮を主原料とし、ペレット化した混合飼料です。大豆皮はNDF含量が高いにもかかわらず、リグニン含量が低いので消化性が高く、高エネルギーです。高繊維、高エネルギーの原料である大豆皮をふんだんに使用した、ファイバーフィードはJ-オイルミルズにしかない、独自の飼料です。

夏場の飼料給与には、粗飼料の不足を補い、第一胃内の発酵の安定させる、ファイバーフィードをお勧めします。



成分	原物中	乾物中
粗たん白質	14.0%前後	16.0%前後
粗脂肪	3.0%前後	3.4%前後
粗繊維	23.0%前後	26.4%前後
粗灰分	7.0%前後	8.0%前後
カルシウム	0.40%前後	0.40%前後
りん	0.15%前後	0.17%前後
TDN	65.0%前後	74.7%前後